

# 1922年生まれ、20世紀最後の巨匠 イヴリー・ギトリスの世界

伝説のバッハ・ベートーヴェン  
イヴリー・ギトリスの協奏曲

共演：日本フィルハーモニー交響楽団（指揮：ヴァハ・マルディロシアン）

2015年

5/1（金）19:00開演 東京オペラシティ  
コンサートホール

全席指定 S席8,500円 A席7,500円 B席6,500円 ギトリスシート 10,500円  
（下記参照）

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲  
バッハ/2つのヴァイオリンのための協奏曲、G線上のアリア  
（ヴァイオリン：イヴリー・ギトリス、木野雅之）



ヴァイオリン：木野 雅之  
山口敦

円熟のブラームス・クライスラー  
イヴリー・ギトリス  
ヴァイオリンリサイタル

2015年 5/6（水・祝）14:00開演

紀尾井ホール

全席指定 7,500円 ギトリスシート 10,500円  
（下記参照）

ブラームス/ヴァイオリン・ソナタ第3番  
クライスラー/美しきロスマリン、愛の悲しみ、  
シンコペーション  
マスネ/タイスの瞑想曲ほか ※プログラムは当日発表



ピアノ：ヴァハ・マルディロシアン

100席  
限定

ギトリスを近くで観れる「ギトリスシート」10,500円（2公演とも1〜6列目）

2公演をギトリスシートで観る「ダブルギトリスシート」2公演で20,000円

※テンポプリモのみ取扱い  
※1,000円引き

※開演は開場の30分前  
未就学児の入場はご遠慮ください。

## チケット販売

テンポプリモ 03-5810-7772 <http://www.tempoprime.co.jp>

イープラス <http://eplus.jp/>

チケットぴあ 0570-02-9999 <http://t.pia.jp>

(Pコード：249-824[5/1]、249-828[5/6])

ローソンチケット 0570-000-407 (Lコード：35189[5/1]、35190[5/6])

<http://l-tike.com/> <パソコン・携帯共通>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

日本フィル・サービスセンター 03-5378-5911（平日10時〜17時）

（5/1オペラシティ公演のみ）

東京オペラシティチケットセンター 03-5353-9999（5/1オペラシティ公演のみ）

紀尾井ホール 03-3237-0061（5/6紀尾井ホール公演のみ）

チケット 12/19（金）発売開始

主催：

株式会社テンポプリモ

公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団（5/1のみ）

後援：イスラエル大使館

お問合せ テンポプリモ 03-5810-7772 [www.tempoprime.co.jp](http://www.tempoprime.co.jp)

これが音楽。これが人生。妖しい調べに、緩急自在という言葉も野暮に響く唯一無比の語り口。古き良き時代の息吹も舞う。

齢90を超えたイヴリー・ギトリスのステージには、ヴァイオリンの、いや音楽のすべてがある。音楽好きばかりでなく、彼の薫陶を受けたヴァイオリニストが、あたかも競うかのごとく、彼のライヴを追いかける。

客席から大喝采を贈る愛弟子の木野雅之を見つけては、満面の笑みを浮かべる(顔をくしゃくしゃにする)ギトリス。そこにあるのは師弟関係ではなく、ぐっと年下だが、頼もしい音楽家仲間である木野への慈愛に満ちた眼差し。信頼、友情である。ギトリスは愛し、愛されている。

1922年、イスラエル北部の楽都ハイファに生を受けたギトリスが、ヴァイオリンをごく自然に手にした頃、この楽器の歴史も輝きを増す。作曲家と名演奏家の交歓が始まるのだ。

シゲティのバッハ演奏に感銘を受けたイザイが無伴奏ソナタ全6曲を書くのが1923年から翌年にかけて。第2番は、ギトリスを高みに導いたジャック・ティボーに、第3番<バラード>はやはりギトリスに多くを受けたジョルジュ・エネスクに捧げられている。プロコフィエフの協奏曲第1番が初めて演奏されたのが1923年のパリ。翌年ラヴェルはハンガリーの才媛ダラーニに<ツイガノ>をプレゼントした。ヤナーチェクのヴァイオリン・ソナタもこの頃中絶で知られるようになる。20世紀の演奏史に燦然と輝くイェフディ・メニュエイン(1916~1999)、それにアイザック・スターン(1920~2001)がヴァイオリンを習い始めた時期でもある。ドビュシー最晩年のヴァイオリン・ソナタ(1915/16)や、ギトリスが2014年6月の紀尾井ホールでのリサイタルで弾いたヒンデミットのソナタ 変ホ長調作品11-1(1918)もそう「遠い」時代の音楽ではない。

ギトリスはそんな時代に生まれたのだ。声高に申すまでもなくヴァイオリンの申し子である。音楽史を映し出す彼の歩みにあらためて想いを寄せれば、少年ギトリスの天才

性に魅了され、パリ音楽院での勉強を勧めたのは、後にイスラエル・フィルを創設するプロニスラフ・フーベルマン(1882~1947)である。ギトリスは恩人フーベルマンの生誕100周年を祝うテルアヴィヴでのフェスティバルで、スターン、イダ・ヘンデル、当時の「若手」シュロモ・ミンツにヴィヴァルディの「調和の靈感」から4つのヴァイオリンのための協奏曲作品3-10を弾いている。オーケストラはもちろんイスラエル・フィル、ズービン・メータの指揮だった。

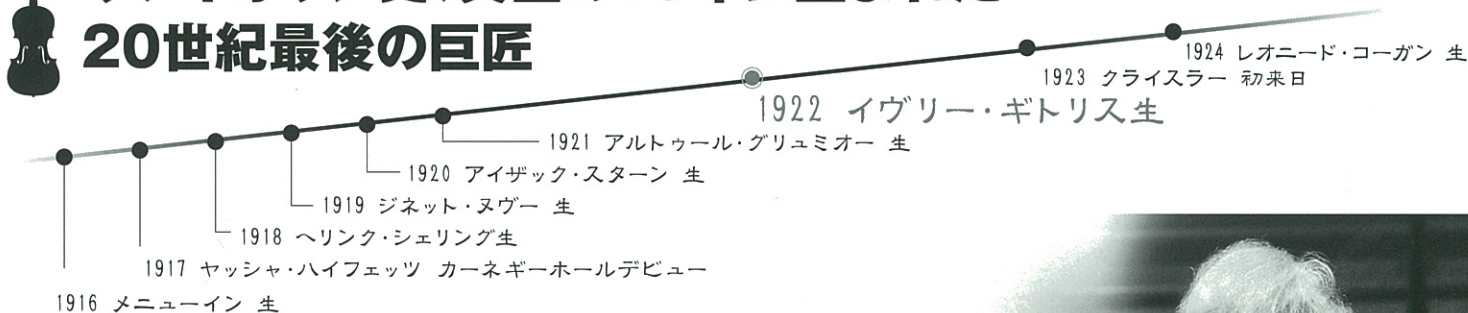
余談だが、このヴィヴァルディ作品(バッハの編曲でも知られる)は、メータ=イスラエル・フィルが祝祭的なシーンでよく取り上げるバロック音楽で、2014年の日本ツアーにも加えられていた。サプライズでソリストの一人がギトリス御大だったら、とは音楽評論家の妄想である。

光彩を放つ音楽史探訪に戻す。ギトリスのパリ音楽院での師は、フォーレ(!)の推薦により同音楽院で教えるようになったジュール・ブーシュリ(1877~1962)とマルセル・シャイエである。ブーシュリはギトリスのほか、ジネット・ヌヴェー(1919~49)、ミシェル・オークレール、ローラ・ボボスコ、それに2012年に不慮の事故で召されたドゥヴィ・エルリーを教えた。

偉人、匠の相関は尽きない。ギトリスが10代前半でコンセルヴァトワールの課程を終え、前述のティボーとエネスクのレッスンを受けていた頃、フリッツ・クライスラーもパリを拠点としていた。イザイの無伴奏ソナタ第4番がクライスラーに捧げられていることを思い出そう。19世紀以来の奏法や解釈が受け継がれるいっぽう、新時代の音楽も続々と産声を挙げていた時代。ギトリスにとって1920年代、30年代は、歴史ではない。作曲家や恩師、先輩の演奏家と親しく過ごした「時」である。

ドイツ・オーストリアの古典や粋な旋律を仰立ちとしたコンチェルトにリサイタルで、またイヴリー・ギトリスに逢える。

## ヴァイオリン史、黄金の10年に生まれた 20世紀最後の巨匠



### イヴリー・ギトリス (ヴァイオリン) Ivry Gitlis, Violin

1922年イスラエルのハイファ生まれ。12歳でパリ音楽院を首席で卒業。その後もエネスコ、ティボー等、名ヴァイオリニストの下で研鑽を積む。19世紀の演奏様式、音楽感を伝える希少な演奏家で、カザルス、ハイフェッツ、ゼルキン等歴史上の名匠をはじめ、アルゲリッチを始め、パレンボイム、メータ、インバル、デュトワ、ニューヨーク・フィル、ベルリン・フィル、ウィーン・フィル等、多くの一流演奏家と共演を行っている。レコーディングの経歴も豊富で、日本ではアルゲリッチ音楽祭ライヴ・ソナタ集、カザルスホールの無伴奏DVD、名盤「24のカプリース」CD、チャイコフスキー協奏曲DVDもリリースされた。2011年の東日本大震災直後に来日し、仙台・石巻で慰問演奏を行い、外務省より感謝状を授与されている。92歳となる今年もフランス、イギリスをはじめヨーロッパ各国でリサイタルを行う等、依然現役最高齢のヴァイオリニストは健在である。ユネスコ親善大使。(使用楽器:1713年製ストラディヴァリウス' Sancy')



### ヴァハン・マルディロシアン (5/1 指揮・5/6 ピアノ) Vahan Mardirossian, Conductor and Piano



アルメニア・エレヴァン生まれ。パリ音楽院でジャック・ルヴィエに学ぶ。首席で卒業しヨーロッパ各国、アメリカ、カナダ、ロシア、日本等各国でリサイタル活動を行う。ギトリス、ロス

トロボーヴィチ、カブソン兄弟、ハンナ・チャン等世界的な演奏家と共演を重ねてきた。現代音楽にも造詣が深く、エリック・タンギーよりピアノ・ソナタ第2番の献呈を受け、パリでの初演に際してル・モンド紙が「驚くべきピアニスト!」の見出しで半ページを割いてマルディロシアンを称賛した。2006年にニューヨークの指揮者セミナーに招かれクルト・マズアに学んで以来、指揮者としても非凡な才能を發揮。フランス国立管弦楽団、ブラハ放送交響楽団等に客演を果たし好評を得た。CD「シューベルト作品集」「ヘンデル・ブラームス作品集」「アルメニア作品集」(イントラダ)。

### 日本フィルハーモニー交響楽団 (5/1 出演) Japan Philharmonic Orchestra



1956年に故・渡邊暁雄が中心となって創立。現在は首席指揮者アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、首席客演指揮者ピエタリ・インキネン、正指揮者山田和樹、ミュージック・パートナー西本智実をはじめとする充実の指揮者陣とともに演奏を行っている。東京都杉並区を拠点に置き、「音楽を通して文化を発信」という信条に基づいて、「オーケストラ・コンサート」、「リージョナル・アクティビティ」、「エデュケーション・プログラム」という三つの柱を打ち立て活動を展開している。

### 木野 雅之 (5/1 出演 ヴァイオリン) Masayuki Kino



ギトリスの愛弟子として数多くの国際ヴァイオリン・コンクールで優勝の後、本格的な演奏活動を開始。これまでにロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、モスクワ放送交響楽団、グレーター・バーム・ビーチ交響楽団、ベルリン交響楽団、オックスフォード・ブロムス交響楽団等、世界のオーケストラと共演している。名古屋フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターを経て、1993年より日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターに就任。そして2002年より同交響楽団ソロ・コンサートマスターに就任。2013年には東京音楽大学教授に就任し、また桐朋学園大学、武蔵野音楽大学にても後進の指導にあたっている。使用楽器は恩師ルッジェーロ・リッチナから譲り受けた1776年製ロレンツォ・ストリオーネ。